日本海地域の自然と環境　第二回　レポート

221280 渡辺悠斗

ワーク１

サンマ（時間、空間、仲間）について

幼少期や小学生時代は時間に余裕がありいろいろな遊びをするのに最適であったと感じた。また、空間・仲間で言えば自分は経験がないのだが、スポーツのクラブなどの課外活動などを体験していた友達は今思えば運動能力だけでなくコミュニケーション能力も優れていたと感じる。資料にあったように現在では時代の変化とともに遊びの「屋内化」が進んでいると感じた。が以前耳にした情報だと、子供の体力テストの記録が低下してきているらしいが、それもこれらサンマの供給量の減少が一因になっていると推測される。

遊びの要素　身体性、感性、社会性、創造性について

私は小学生時代近くの児童館に通っていたのだが

身体性でいえば児童館でオリジナルのゲームで柔らかいクッションを当てあうものや、学校の休み時間ではおにごっこやドッヂボールなどの運動が体力や筋力の発達につながったと思う

また、児童館ではお化け屋敷だったり少し規模の大きいドミノ倒しをやったり創造性を鍛えられたと思っている。

友達と一緒にゲームをしたりしたのはコミュニケーション能力の発達につながったと思う。

他に個人的に感じることは、サンマのすべてが昔ならではの直接的なものである必要があるのかということだ。例えば空間で言えば、今は昔とは違いアトラクション施設などのスポーツ・娯楽施設は発展してきているし、いくら公園や自然が減っているといってもその影響が大きいのは都市部であって多くの街や地域ではそういった問題はあまり関係なく、実際私が住んでいた地域では公園や自然は遊ぶ場所に困るほど不足していたようには思えなかった。

大事なのは実際問題になっているのは遊びによって子供時代に得られる能力の減少であって遊び（屋外）そのものの減少ではないということだ。

それを踏まえれば先ほど述べた遊びの「屋内化」はただただ悪いということではなく、子供のあそび方が多様化し選択肢が増えただけといえると思う。

今は「屋外」で体験できるゲームでも最低限のスペースがあればできる体を動かすゲームもあるし、だんだん進化しているVRなどでかなりリアルな空間で遊べるものもある。

ただ、家の外に出て自然や友達と実際に触れ合いながら五感を使い遊ぶのに越したことはないと思うのそのバランスをとるのが大事だと思った。

ワーク２

1. 子どもにやさしいまちづくり事業とは

資料によると「子どもにやさしいまち」とは、子どもの最善の利益を図るべく、子どもの権利条約に明記された子どもの権利を満たすために積極的に取り組むまちとある。また、資料の別のページによると、子どもが、自分たちが暮らす“まち”の在り方に関して意見を言えたり、意見を聞いてもらえたり、また、安全で安心な環境で育ち、教育・健康などの基礎的社会サービスであり、遊んだり勉強したりして育っていく環境のあるまちの事だそうだ。

この「子どもにやさしい」のとらえ方が大事であって資料にはこのようにあった。

『子どもを受益者と位置づけ、子どもに対して善意を施すこと、つまり、助けてあげる、守ってあげる対象として子どもを捉え、これを“やさしい”としてしまいます。しかし、子どもを権利の「客体」として捉えることに加え、権利の「主体」として、自分が考えていることや思うことを言えること、そしてそれを聞いてもらえることにより、自分に自信を持ち、社会への積極的な参加意識をもてることが同じように大切です。それを実現するのが子どもにやさしいまちなのです。』

つまり「子どもにやさしいまち」とは親、社会からのサポートが充実しているまちというわけでなく、こどもを一人の権利者として扱い、子どもの自主性を尊重し成長を助けるまちだと解釈した。

また資料にはこのような“まち”を実現する目的としてこのようなことが書いてあった。

子どもが一人の人間として扱われ、社会と関われることなしに私たちの生活環境は持続できなく、子どもが社会に参画することで他者を尊重するようになりすべての人にやさしいグローカルな取り組みになる。そしてそれが地球を守ることに繋がり持続可能なみんなのまちになる。

　この事業は近年問題になっている様々な環境問題に対する開発目標SDGsのためになるそうだ。具体的には子どもへの投資が子ども自身にとっても社会全体にとって高い効果があると位置づけられ、子どもが保護の対象であるだけでなく、変化の主体と位置付けられているそう

だ。

②日本で取り組まれている事業

私は比較的開発が進んでいると思った東京都町田市の取り組みを見てみることにした。

町田市では2021年度からは、市役所各部署において、ユニセフ「日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル構成要素10項目及びチェックリスト」を用いた自己評価を実施し、自己評価結果を公表しているそうだ。そこには10個の構成要素からなる具体的な事例について、充分満たしているかを確認する約50個ものチェック項目があった。これだけの項目があればかなり細かく実態を把握できてよいと思った。また子ども関連団体等から意見をもらい、それらの結果を施策・事業にどのように反映させていくかを検討し、改善に取り組んでいるらしい。

チェックリストだけだと地域全体の意見を反映できないと思うが、子ども関連団体等から意見をもらうことで本当に子どものために必要なことが町田市に伝わると思うのでいいと思った。